

神奈川県立の博物館・美術館 令和5年度展覧会スケジュール

	金沢文庫	歴史博物館	生命の星・地球博物館
	<p>3/31~5/21</p> <p>特別展「金沢文庫の肖像」 武州金沢の古刹である称名寺に伝わった国宝の金沢北条氏歴代当主の肖像画をはじめ、称名寺の僧侶の肖像画や関連する古文書、聖教や法衣、法具なども展示いたします。</p>	<p>常設展(通年)</p>	<p>常設展(通年)</p>
4		<p>4/29~6/18</p> <p>特別展「あこがれの祥啓一啓書記の幻影と実像」 室町時代を生きた鎌倉建長寺の画僧祥啓(しょうけい)が描いた山水図や花鳥図、人物図を展示します。祥啓の次世代の絵師たちが残した絵と比べることで、祥啓の絵の特徴が次世代にどのように引き継がれ、あるいは変容するのかを辿ります。</p>	<p>2/18~5/7</p> <p>企画展 「超(スーパー)普通種展 ~自然史研究を支える主役たち~ テレビやインターネットなど、巷では珍しい、希少な生物がよく注目されています。その一方、どこにでもいて、珍しくない「普通種」については、あまり注目されません。本展示では当館収蔵の普通種の標本と調査研究活動の実例を通して、普通種のもつ面白さや重要性を紹介します。</p>
5	<p>5/26~7/23</p> <p>特別展「社寺明細帳図 明治13年神奈川県下の神社・寺院の姿 神奈川県では明治12年国が作成させた「社寺明細帳」に対して翌年図面作成を命じました。社寺明細帳図です。あなたの町の神社や寺院の図はあるでしょうか。</p>		
6		<p>7/29~9/18</p> <p>特別展 「関東大震災」 1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災は、各地に甚大な被害をもたらしました。発災から100年の節目を迎えるにあたり、その被害を振り返るとともに、特に復興の過程や、現在に至る防災の取組みに主眼を置いて紹介します。</p>	<p>7/15~11/5</p> <p>特別展 「みんなで探そう かながわのご当地菌類(仮称)」 きのこ、カビなどの菌類は、私たちに身近な存在であると同時に、謎に包まれた存在でもあります。本特別展では、神奈川県から新種発表された菌類や、絶滅のおそれのある種、県内でよく見られる種など、かながわを代表する「ご当地菌類」を多数展示します。また、このような菌類の調査・研究に、多くの一般市民が関わっていることもご紹介いたします。</p>
7	<p>7/28~9/24</p> <p>特別展「中世学僧列伝」 中世の称名寺は個性的な僧侶が集い、仏教を学ぶとともに、日々の生活を送る場でもありました。本展覧会では、国宝「称名寺聖教・金沢文庫文書」を読み解き、称名寺の歴代長老の周辺で活動した、知られざる学僧たちに光をあてます。</p>		
8		<p>10/7~11/26</p> <p>特別展 「足柄の仏像」 足柄地方の仏像が一堂に会する当館では初めての特別展です。足柄坂や箱根山、酒匂川流域に伝わる平安時代から鎌倉時代の彫像など約70件(寺外初公開を含む)を中心に公開します。</p>	<p>12/16~1/8</p> <p>「2023年度 子ども自然科学作品展」 夏休みの自由研究や日頃から行っている調査研究の成果など、自然科学に関する小・中学生の研究作品を展示します。毎年、数多くの力作が寄せられ、作品の一つひとつに当館の学芸員のコメントが付けられます。他の児童・生徒の皆さんの研究の参考にもなります。</p>
9	<p>9/29~11/26</p> <p>特別展「廃墟とイメージ 憧憬、復興、文化の生成の場としての廃墟」 中世の文学や美術には、災害や戦乱により家屋や寺社が荒廃したという記述がみられます。絵巻や仏教説話画に描かれる「廃墟」には仏教的な意味が暗示されているものがあります。本展では、古代中世の「廃墟」の表徴をたどり、「廃墟」の文化史について考えます。</p>		
10			
11	<p>12/1~1/21</p> <p>特別展「書誌学展」(仮) 書物はその成立や伝来に応じて、卷子装、袋綴装など、さまざまな装訂や材料でつくられてきました。日本中世の書物のさまざまな「かたち」を、国宝「称名寺聖教・金沢文庫文書」より紹介します。</p>		
12			
1	<p>休館予定1/26~1/31</p>		
2	<p>2/1~3/17</p> <p>特別展「仏、羅漢、菩薩へのまなざし」(仮) 仏や羅漢、菩薩の姿に、私たちは自然と手を合わせ頭を垂れます。本展では、称名寺に伝来した仏像、仏画から、その背景にある福田(ふくでん)思想について、国宝「称名寺聖教」、重文「宋版一切経」を助けとして読み解きます。</p>	<p>2/18~4/9</p> <p>コレクション展「藤助さんと幕末」 幕末期から37年間に渡って記された武蔵国橋本郡長尾村(川崎市多摩区・宮前区)の「鈴木藤助日記」を中心に、近世から近代へ移り変わっていく時代をひとつの村の動きを通して紹介します。</p>	<p>2/23~5/12</p> <p>企画展 「動物たちのくらし ~藪内正幸が描いた生態画の世界~ (仮称)」 動物たちのしぐさやすんでいる環境などを紹介する「動物生態画」は、絵本や図鑑など広く利用されてきました。本展示では、藪内正幸氏により描かれた生態画を通して、動物たちのくらしぶりを剥製や写真と共に紹介します。</p>
3	<p>3/22~5/19(予定)</p> <p>企画展「こんな資料あります！新収資料・寄託資料展」(仮称) 県立金沢文庫が新たに集めた資料、寄託されている資料を中心に紹介します。称名寺の名宝とともに、お楽しみください。</p>	<p>2/3~3/6</p> <p>かながわの遺跡展(文化遺産課共催事業)</p> <p>3/16~</p> <p>特別陳列「戦国大名北条氏と西相模、伊豆」 当館が所蔵する江梨鈴木家文書をはじめとする北条氏関係文書などにより、戦国大名北条氏の当主が直轄統治した相模国西部および伊豆国の様相を明らかにします。</p>	
4			
施設情報	<p>住所 〒236-0015 横浜市金沢区金沢町142 電話 045-701-9069 アクセス 京浜急行「金沢文庫」駅東口からバスまたは徒歩12分、またはシーサイドライン「海の公園南口」駅から徒歩10分 休館日 月曜日(祝祭日は開館) 年末年始 展示替期間 休館日の詳細は ホームページをご覧ください。</p>	<p>住所 〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60 電話 045-201-0926 アクセス みなとみらい線「馬車道駅」5番出口から徒歩1分、JR根岸線「桜木町駅」新南口から徒歩5分、または市営地下鉄「関内駅」から徒歩5分 休館日 月曜日(祝祭日は開館) 年末年始 資料整理休館日 ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。</p>	<p>住所 〒250-0031 小田原市入生田499 電話 0465-21-1515 アクセス 箱根登山鉄道「入生田(いりうだ)駅」から徒歩3分 休館日 月曜日(祝祭日は開館) 年末年始 館内整備日 燻蒸期間 8月は無休 休館日の詳細は ホームページをご覧ください。</p>

◆展覧会の名称及び日程は現時点での予定となります。最新の情報は各館のホームページ等でご確認ください。

神奈川県立の博物館・美術館 令和5年度展覧会スケジュール

	近代美術館 葉山	近代美術館 鎌倉別館
4	<p>~4/9</p> <p>横尾龍彦 瞑想の彼方</p>	<p>~4/9</p> <p>コレクション展 ジョルジュ・ルオーの銅版画</p>
5	<p>4/22~7/2</p> <p>生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良</p> <p>戦後日本彫刻史に大きな足跡を残した彫刻家・佐藤忠良(1912-2011)。代表作として広く知られる彫刻《群馬の人》と《帽子・夏》、そしてロングセラー絵本『おおきなかぶ』はいかにして誕生したのでしょうか。佐藤の制作の軌跡をたどり、作家が蒐集し生涯手元においたオーギュスト・ロダン(1840-1917)やマリノ・マリニ(1901-1980)、ペン・シャーン(1898-1969)などのコレクションを手がかりとしてその創造の秘密に迫ります。</p>	<p>4/22~7/2</p> <p>コレクション展 野崎道雄コレクション受贈記念 見えないもの、見たいところ</p> <p>当館では昨年度、野崎道雄氏(1931-)からゲルハルト・リヒターを中心とする150点余りの現代美術の寄贈を受けました。野崎氏は眼科医として勤めるかわら、1980年代より近現代美術への造詣を深め、作品と図書を収集しました。野崎氏がとりわけ心を寄せたりリヒターに加え、ジグマー・ポルケ、ヨーゼフ・ボイス、ロイ・リキテンスタイン、マルセル・デュシャンらの作品を精選し、長年の収集に込められた思いの一端とともに紹介します。</p>
6		<p>4/29~9/3</p> <p>吉村弘 風景の音 音の風景</p> <p>1970年代初めから環境音楽の先駆けとして活躍した吉村弘(1940-2003)。2003年の葉山館開館を機に吉村が作曲した葉山館と鎌倉館のサウンドロゴは、現在も葉山館で朝夕に館内を流れ、来館者を惹きつけています。没後20年を記念する本展では、音楽作品のほか、写真、映像作品、小杉武久(1938-2018)や鈴木昭男(1941-)とともに行ったパフォーミングやサウンドインスタレーションなど、多様な活動を新資料群によって紹介し、知られざる吉村弘の世界に誘います。7年ぶりに鎌倉別館で復活する鎌倉館のサウンドロゴにもご注目ください。</p>
7	<p>7/15~9/24</p> <p>挑発関係=中平卓馬×森山大道</p> <p>日本の写真史にその足跡を残すふたりの写真家(1938-2015)と森山大道(1938-)は、お互いを唯一無二の同志であり好敵手と認める仲でした。本展は、半世紀にわたり展開されたふたりの写真表現を並行して検証しなおす、初めての機会となります。ともに若かりし頃に足繁く通った葉山を舞台に、各時代の写真作品を雑誌などの貴重な資料から振り返り、日本の写真界において比類ない奇跡ともいえる稀代の写真家同士の「挑発」を明らかにします。</p>	<p>7/15~9/24</p> <p>コレクション展 加納光於 色(ルウパ)、光、そのはためくもの</p> <p>加納光於(1933-)は時流に与せず豊かなイメージを追求してきた独行の作家です。当館では1950年代半ばから2000年代までの代表的な版画を収集しています。今回は新たに作家から寄贈された油彩を加えて展示し、70余年にわたり独自の色彩観「ルウパ Rūpa(色)」を根源に創作してきた加納の軌跡をたどります。</p>
8		<p>9/16~11/26</p> <p>荘司 福 旅と写生/ドローイング</p> <p>旅と思索の画家と称される荘司福(1910-2002)は、石や土、自然の風景を題材に、存在の重みと時間性を玄妙に描き尽くし、単なる風景や心象を超えた深みを持つ作品を数多く生み出しました。日本各地や中国、インド、カンボジアへの旅の中で残されたスケッチとドローイングを、完成した日本画とともに紹介します。多様な世界観の探究を通して画家が得た制作の本質と、モチーフに対する独自の視点をさぐります。</p>
9	<p>10/7~1/28</p> <p>葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930</p> <p>葉山館の20周年を記念して、当館が館名にかかげる「近代(モダン)」の文化が多様に展開した20世紀の1920年代を再考します。1910年代のロシア革命、第1次世界大戦、そしてスペイン風邪によるパンデミック後の世界で、芸術家たちは国境を越えて活動しました。1923年の関東大震災とその復興期を駆けたモボ・モガたち、昭和へと移行する時代の新興美術運動など、100年前の世界が夢みた新しさの諸相を概観します。</p>	<p>12/9~2/12</p> <p>イメージと記号-1960年代美術の諸相</p> <p>美術という制度が問われた1960年代。乾いたユーモアで社会に氾濫するイメージを無化し、記号や位相幾何学を振り所に造形することを問う作品が登場します。初の国際審査制が導入された1967年の第9回東京ビエンナーレは美術と社会との接面を映しだすものでした。当館所蔵品を中心に井上長三郎(1906-1995)、堀内正和(1911-2001)、杉全直(1914-1994)、麻生三郎(1913-2000)、飯田善國(1923-2006)、高松次郎(1936-1998)、若林奮(1936-2003)らを取り上げ、ビエンナーレ出品作や資料を交えて時代の断面を検証します。</p>
10		<p>2/23~5/6</p> <p>小金沢健人×佐野繁次郎</p> <p>ドローイング/シネマ</p> <p>絵画から映像、立体まで多様な展開をみせる小金沢健人(1974-)と、独特の手描き文字と線画による装幀・挿画の仕事が油彩画と並び愛されている佐野繁次郎(1900-1987)の仕事を紹介します。線でイメージを描き出す「ドローイング」は、カット/イラストレーションとどう異なるのか? イメージの連なりがもたらす動きの感覚とは? 美術家の手と眼が生む色と線に着目し、平面表現の境界を探求します。</p>
11	<p>2/10~4/7</p> <p>芥川龍之介と美の世界 二人の先達-夏目漱石、菅 虎雄</p> <p>今もなお幅広い世代に愛される小説家・芥川龍之介(1892-1927)。芥川は作品や書簡等においてしばしば美術に言及し、その文学と美術への関心の高さは、彼が師と仰いだ夏目漱石(1867-1916)と共通しています。一方、菅 虎雄(1864-1943)は、芥川の一高時代のドイツ語の教師であるとともに、漱石を禅に導いた人物でした。本展では、芥川を中心とする漱石、菅の三人の交流関係に注目しながら、芥川の文学世界とその眼を通した美の世界を紹介します。</p>	<p>2/10~4/7</p> <p>コレクション展 木茂(もくも)先生と負翼童子</p> <p>自らを書痴と称し、愛書家にして愛煙家であった“木(もく)茂(も)先生”こと美術史家・青木茂(1932-2021)。幕末明治の洋画家・高橋由一研究の第一人者として長年にわたる研究を重ねた青木が蒐め、当館に譲られた蔵書「青木文庫」は1万冊に及びます。今後の美術史研究に大きな遺産となる「青木文庫」の中から明治期の貴重な資料を紹介するほか、青木の調査によって明らかとなった2019年度収蔵の高橋由一旧蔵作品《負翼童子図》(作者不詳)を修復後初公開します。</p>
12		
1		
2		
3		
施設情報	<p>住所 葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800 アクセス JR横須賀線「逗子駅」東口、京浜急行「逗子・葉山駅」南口から京浜急行バス「逗11、12系統(海岸回り)」乗車、「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車 休館日 ・月曜日(祝日と振替休日は開館) ・年末年始 ・展示替期間 ※ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。 開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)</p>	<p>住所 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-5000 アクセス JR横須賀線、江ノ島鉄線「鎌倉駅」から徒歩15分 休館日 ・月曜日(祝日と振替休日は開館) ・年末年始 ・展示替期間 ※ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。 開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)</p>

◆展覧会の名称及び日程は現時点での予定となります。最新の情報は各館のホームページ等でご確認ください。